

ISO規格の取得と活用で 事業経営の透明性とマネジメント力の強化を!

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC運営委員 藪野 嘉雄 / ATAC 久保田達之

ISO規格 (ISO9001、ISO14001) の認証取得が進んでいます。取得件数は2004年2月現在でISO9001: 34,570件、ISO14001: 14,309件ですが、この3~4年低調であったISO規格の取得がここに来て活発になってきました。

経営環境に薄日が射して、企業の生産・販売の回復が規格取得に積極的になってきています。ISO規格は大企業ではほとんど認証取得が終わり、現在、取得を目指しているのは中堅・中小企業が中心です。

特にISO9001は昨年12月に2000年版への移行が終わり、規格のタイトルが今まで(1994年版)の「品質保証の国際規格」から「品質マネジメントシステム」に改定されました。内容も大企業の製造業を対象にした文言からあらゆる業種、そして規模の大小に関係なく対応できるように改定されましたので、中堅・中小企業が取り付きやすくなりました。そのため製造業のみでなく、建設業、小売などのサービス業、病院や医院、自治体など業種横断的に広がりを見せています。

ISO14001(環境マネジメントシステム: EMS)は地球環境保全と持続可能な産業発展の調和を基本とした規格です。「持続可能な発展」を追求していくためには、最小の資源やエネルギーで最大の効果を生み出す「循環型社会」の実現が必要不可欠です。事業活動においては、原材料の仕入先から製品の流通・販売の担当者、さらには製品を使用するお客様、リサイクルを共に進める事業者とのパートナーシップのもと、より環境負荷が少なく、より効率的な活動を通して資源循環に取り組むとともに、リデ

ュース・リユース・リサイクルを配慮した開発・設計や、より高度なリサイクルシステムの構築が急務とされています。

これらの理由で、自治体・大企業を中心に購買行動の変化が進み、環境に配慮した企業の製品を優先的に購買する、いわゆるグリーン調達の一つの流れになりつつあります。

今後の事業経営活動の展開上、無視できない要因です。中小企業にとっても、社会経済の主要な担い手として、環境に対する自主的な取り組みは不可欠になりつつあります。

参考に、中小企業でいままでにISO規格を取得した動機は「企業のイメージアップ」「環境問題への貢献」「従業員の意識向上」「社会的信用の増大」「環境リスク低減」「法遵守の徹底」「コストダウン」「親企業からの要請」「取引先からの要請」「売上の増大」などです。(資料: 中小企業総合事業団)

いずれの理由にしても、認証取得したからには、それを活用し企業経営の活性化に繋ぐことが必要で、積極的な活用による効果は中小企業経営に大きく現れています。

ATACはISO9001・14001の認証取得とその活用を支援し、貴社の経営活性化に協力しています。

1. 6ヶ月で認証取得の可能な体制作りの支援をします。
2. 貴社で一番悩んでいる問題も取り上げ解決できるよう支援します。
3. これらを最小費用で実現できるよう支援します。